

鳥取県の尿酸値の現状について

公益財団法人 鳥取県保健事業団 ○梶川 貴子 村上久美子
岸田 夏澄 福田咲貴子

I はじめに

メタボリックシンドロームの判定基準項目に血清尿酸値は含まれていないが、メタボリックシンドロームにより高尿酸血症が悪化することが耐糖能や血圧に悪影響を与えていると言われている。これらの病態は、動脈硬化を進め、脳血管疾患、虚血性心疾患などの合併症の原因となりえる。

高尿酸血症は若い世代からの生活習慣が影響していると考えられる。メタボリックシンドロームと併せて、なるべく早い段階で生活習慣を見直し、予防していくことが必要だと考え、鳥取県の職域健診における血清尿酸値及び肥満、飲酒の現状について検討したので報告する。

II 対象者

2011年に当事業団で職域健診を受診し、尿酸値・BMIの2つのデータが揃っている、男性24,824名、女性21,502名、合計46,326名の結果。

III 集計方法

尿酸平均値（グラフ1）、尿酸値異常者の割合（グラフ2）、BMI平均値（グラフ3）、尿酸値異常者の肥満割合（グラフ4）、尿酸値の異常による通院人数（グラフ5）については、性別・年代別（20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上）に集計した。

尿酸値正常者と異常者の飲酒割合（グラフ6）、尿酸値異常者の一週間の飲酒量（グラフ7）については、性別で集計した。

尿酸値異常、BMI異常の基準値については、表1の通り。

（表1）尿酸値異常とBMI異常の基準値（※）

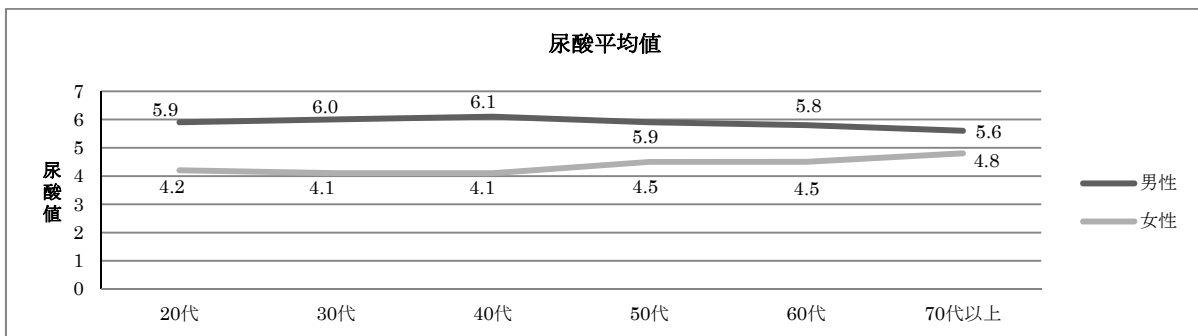
項目	基準値
尿酸	7.5以上
BMI	25.0以上

※2011年度時点での基準値。現在は異なる基準値を使用。

V 結果

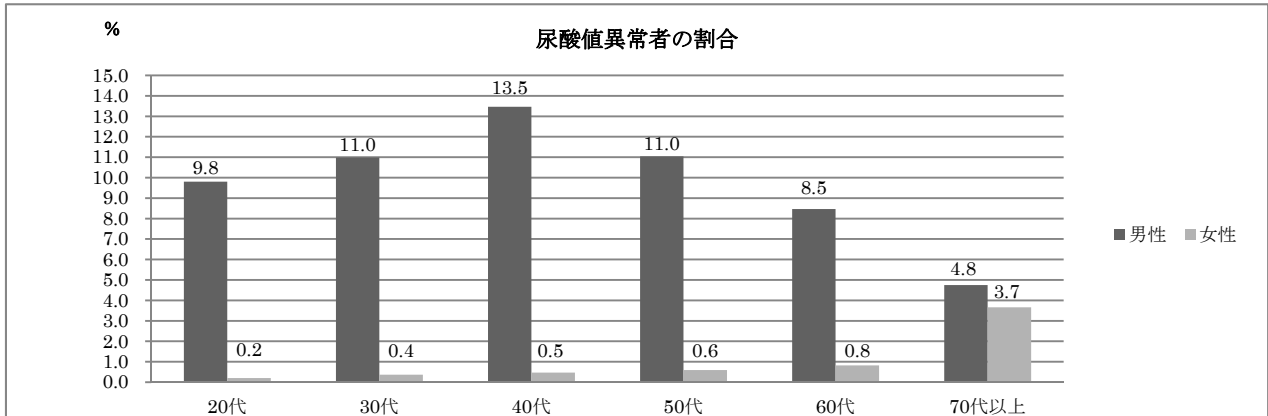
（1）尿酸平均値（グラフ1）

尿酸平均値は、どの年代においても、女性より男性が高くなっている。男女とも年代による大きな差は見られないが、男性では40代が最も高く、年代が上がるにつれて低くなっている。女性は50代から徐々に高くなり、70代で最も高くなっている。



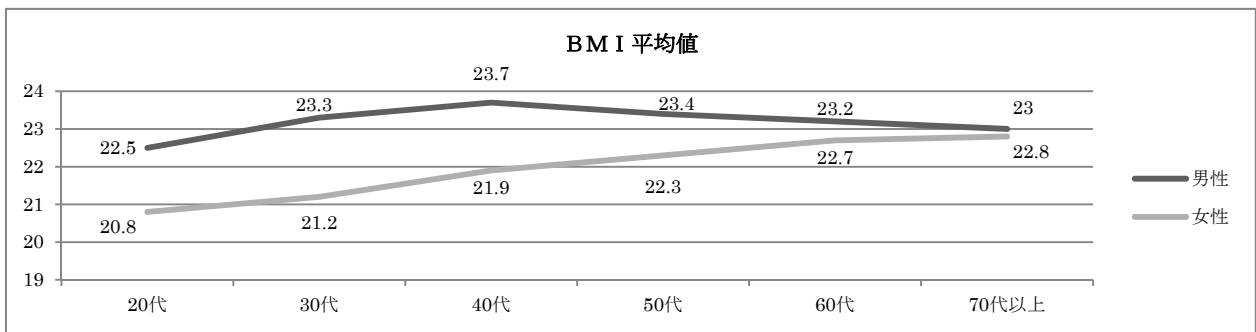
（2）尿酸値異常者の割合（グラフ2）

異常頻度は女性と比べて男性のほうが圧倒的に高くなっている。男性は20代から40代にかけて徐々に異常頻度が高くなり、40代で最も高く、50代から年代が上がるにつれて、徐々に低くなっている。女性は年代が上がるにつれて、異常頻度が徐々に高くなっている。



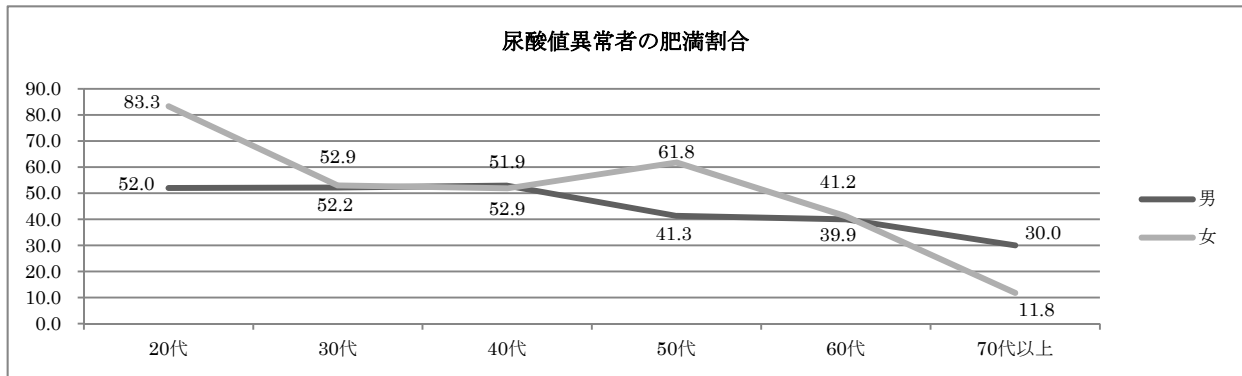
(3) BMI 平均値 (グラフ 3)

男女ともに年代による大きな差は見られなかった。男性は40代をピークに緩やかに下がり、女性は年代とともに上がっている。



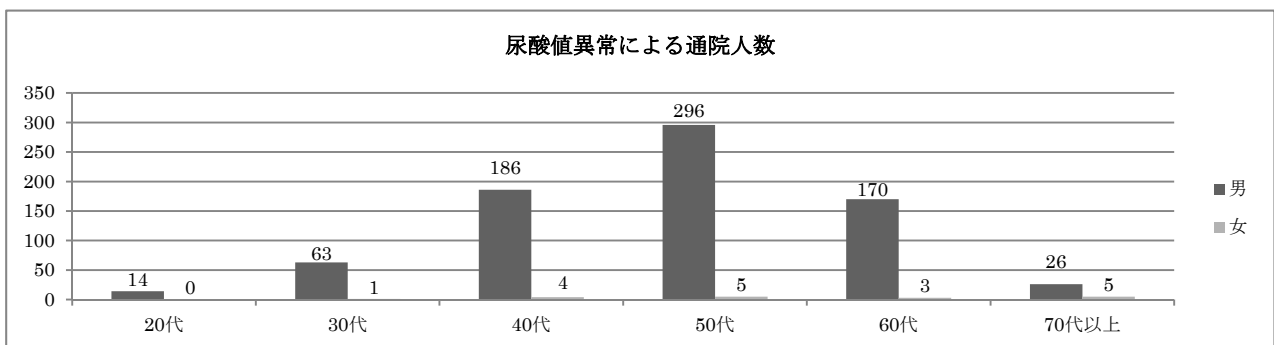
(4) 尿酸値異常者の肥満割合 (グラフ 4)

男性は40代まで横ばい、その後低くなり、女性は年代が上がるにつれて低くなっている。



(5) 尿酸値異常による通院人数 (グラフ 5)

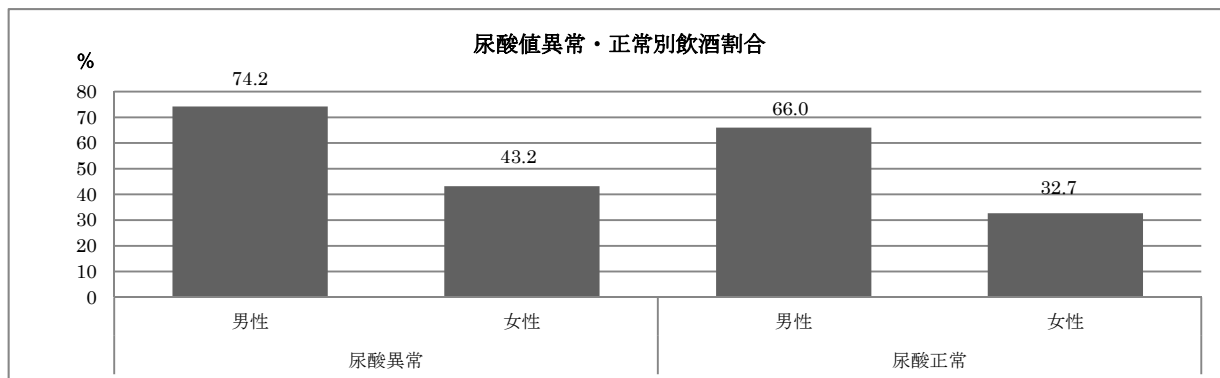
通院 (問診で観察中または治療中と回答とした) 人数は、女性と比べて男性のほうが圧倒的に多くなっている。男性は、40代で急増し、50代をピークに徐々に減少している。女性は、年代による大きな差は見られなかったが、40代から増えている。



(6) 尿酸値正常者と異常者の飲酒割合 (グラフ6)

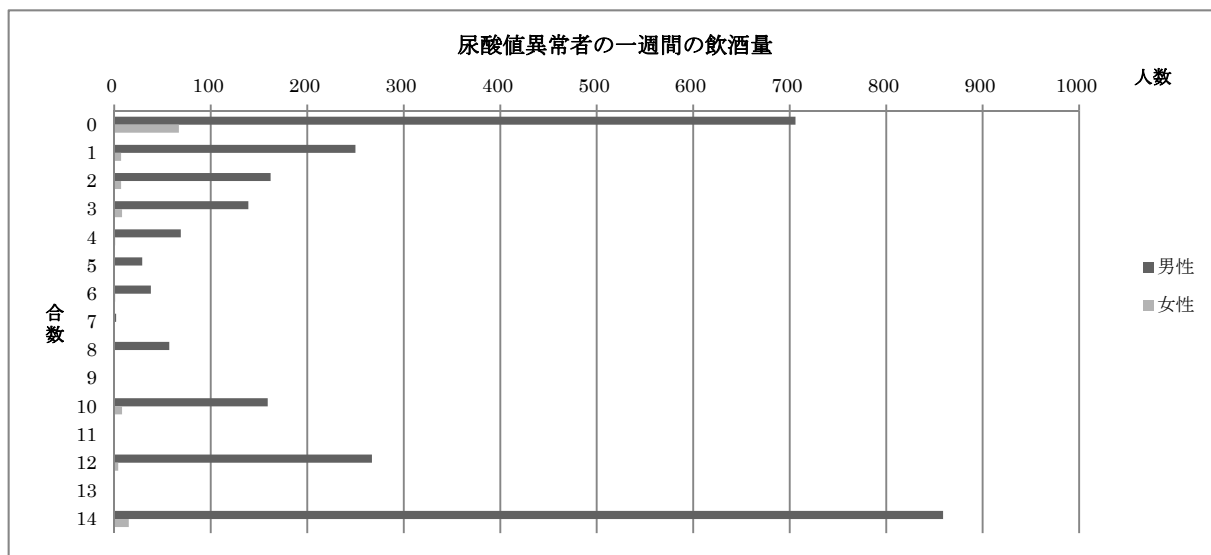
男性・女性とも、尿酸値正常者より異常者の方が割合が高くなっている。

女性は飲酒習慣のある者が5割未満だが、男性はどちらにおいても5割を超えており、特に異常者においては7割を超えている。



(7) 尿酸値異常者の一週間の飲酒量 (グラフ7)

尿酸値異常者の一週間の飲酒量は、男性は14合と答えた者が最も多く、次いで飲まない、12合の順であった。女性は飲まないと答えた者が最も多く、次いで14合、3合と10合であった。女性と比べて、男性は飲酒習慣のある者が多くなっている。



VI 考察

尿酸平均値、尿酸値異常者の割合、尿酸値の異常による通院人数のいずれも女性より男性が高い結果となった。

男性は20代から40代にかけて、女性は年代が上がるにつれて、異常者の割合が徐々に高くなっていることから、20代のころからの生活習慣の結果が40～50代の働き盛りの年代に現れている可能性が考えられる。男性では、尿酸値異常者の割合が40代で高くなり、通院人数も40代で急激に多くなっているため、健診から治療へ結びついており、治療の結果、尿酸平均値が40代以降下がってきているのではないかと考えられる。女性では、50代以降の尿酸平均値が増加傾向にあるのは、閉経による女性ホルモン変動が影響していると考えられる。

今回、尿酸値の異常と肥満との関係性について、明確なことは言えなかったが、男性では尿酸値異常者の割合が最も高い40代において、肥満者の割合が最も高くなっており、高尿酸値と肥満の関係が考えられる。

尿酸値異常者の内、男性では7割を超えて飲酒習慣があり、飲酒量も適量より多く、飲酒と尿酸値異常の関係性は高いと考えられる。

以上のことから、若い世代から食事や飲酒、運動などの生活習慣を見直し、良い習慣を身につけられるよう支援していくことと、尿酸値異常者へ、受診勧奨や受診後の結果報告をしてもらうなど、医療機関受診へつながるような健診後のフォローが大切だと考える。